修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
東京都千代田区西神田
2丁目8－7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）3－36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。
（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

科学万博・アンケート調査

小・中・高校6,705校

子供の教育のために

一百二十五校が実施を希望

前号で、国際科学技術博覧会（科学万博―つくば85）について、教育見学実施資料としての、アンケート調査の概要について述べた。本号では、その続きとして、調査主要項目である①関心度②実施計画の有無③実施形態④宿泊希望地について校種別、地方別に集計の結果を明らかにする。

〔関心の有無〕
―表1参照―

前号で科学万博に対する関心が、全体的にきわめて高いことを示したが、表1によると、各地方の小・中・高校とも、共通して、その教育的意義を認め、期待しているものと考えられる。地方ごとに、回答数に対する比率をみると、小学校で「関心あり」が、東北一〇〇%、関東九〇・七%、北陸五三・八%、東海八〇・六%を示し、中学校では、北海道九四・一%、東北八四・六%、関東八七・六%、北陸八〇%、東海八三・九%、近畿八六・九%である。また高校では、北海道九六・九%、東北九〇・五%、関東九〇%、北陸八〇・五%、東海八八・五%、近畿七六・九%、中国八六・八%、四国九三・二%、九州・沖縄八六・五%となり、何れも高い関心度を示している。

〔見学実施〕
―表1参照―

科学万博の教育的意義を高く評価し、その意識を持ちながらも、現段階ではまだ実施決定校は少ない。前号で実施校数、学校における未確定の要因、各地方の実施上の困難点などについてふれた。表1により実施校の比率をあげると、小学校では東北五〇%、関東八・六%、東海二・七%、中学校は東北一三・五%、関東一二・九%、北陸五・七%、東海四・八%、近畿四・三%。高校においては、北海道六%、東北一八・六%、関東五・七%、東海四・九%、近畿二・四%、中国五・六%、四国一五・二%、九州・沖縄四・八%、特に高校では、理科や技術科等の教育課程と関連する見学が望まれているのではないかと思う。

〔実施形態〕
―表2参照―

回答は実施するとすればの前提によるものが多く、表1の実施校数とは一致しない。実施形態は、実施学年や実施時期とも関係し、地方的差異は余り見られない。高校は二年生の修学旅行による見学が多いが、関東の高校では、全学年の校外学習と遠足による見学が、修学旅行よりも多い数字を示している。また中学校では一般的に三年生の修学旅行利用が多いが、関東では、全学年日帰りの校外学習と遠足による見学が多くなっている。これは、開催地県・近接県という立地条件の関係からと考えられる。表2によると、「科学万博だけ見学」は、小学校一・八%、中学校一・八%、高校三・六%であり、「修学旅行組み入れ」は、小学校五・五%、中学校二一・三%、高校三六・三%で、「遠足」は小学校四%、中学校四・一%、高校三・五%である。「校外学習」は小学校八・三%、中学学五・九%、高校五・八%となっており、「修学旅行」と「校外学習」の利用による見学が多いことを示している。なお参加方式については、学年や学級の全員参加が多いが、高校では、希望者を募り見学する方式が、小・中学校より多いのは、クラブ活動や教科の学習内容が、科学万博に関連するためと考えられる。例年の修学旅行の目的地や時期を変更し、「科学万博」見学を実施することは、無理があるという意見もあったが、従来からの目的地が、関東や東京である場合に、コースの一部を変更し、日程・費用等も配慮し、東京都内見学をやめ「科学万博」見学の実施を今後検討する学校もある。実施時期は、小・中・高校とも五月が最も多く、高校では八月・九月がこれに次ぎ、中学校では五月に次いで六月も多い。

〔宿泊希望地〕
―表2参照―

宿泊地と利用交通機関は密接に関係している。宿泊施設と輸送の確保は、児童生徒引率の場合、大切な問題である。表2によれば、東京都内の希望が最も多く七・三%、茨城県内の希望は三・二%、未定は八八%となっている。このことは開催地の宿泊施設の整備を求めているとも考えられる。なお修学旅行に組み入れ、科学万博を見学する場合、宿泊地は全体のコースや他の見学地との関係から検討される。

また寄せられた意見の中には①開催地に近いので見学の方向で検討する②小・中学生にも理解できる展示内容を③会場の混雑が心配④宿泊施設の整備⑤会場までの道路の整備⑥交通渋滞の解消⑦団体集合所の設置⑧待ち時間が長く、見学時間が短くならないか、などがあった。

集計を終えて――

五十七年十一月の調査時点では、二年余り先のことであり、多くの学校で、まだ検討されていない実情にあった。しかしアンケート結果は、科学万博に対する否定的意見はなく、高い関心を示した。科学万博は、二十世紀に生きる青少年の前途に夢と希望を与える、またとない教育の機会でもある。科学技術の専門家だけでなく、国民一人ひとりのものとして理解され、青少年の将来のため、教育実践に生かされることを期待したい。

（実施形態・宿泊希望地―表2は2面に）

修学旅行指導の文部省新教科調査官に

高橋　哲夫氏

特別活動・生徒指導担当

修学旅行の教育指導（特別活動・生徒指導）担当の教科調査官に、高橋哲夫氏が、一月十六日付で就任された。

先きに、前調査官堀久氏が、急逝されたあと、教育現場や関係教育団体からその後任を待たれていたので、同氏の指導に大きい期待をよせられている。

高橋哲夫氏は、昭和三十二年東京教育大学教育学科卒業、同大学院修士課程（生活指導専攻）修了、群馬県立伊勢崎高等学校教諭、昭和四十四年群馬県教育委員会指導主事、四十七年同県教育センター指導主事（教育相談担当）、五十年群馬県教育委員会教育相談課長、高校教育課特殊教育室指導係長、県立前橋第二高等学校教頭（通信課程）、県立伊勢崎工業高等学校教頭（定時制）を経て現職。

同氏は、新任の抱負として「非行、校内暴力が多発し、その対策が焦眉の急となっている現在、生徒指導、特別活動の分野でも、根本的な見直しが必要である。また、この観点からもあらためて、修学旅行の意義が強調されよう。」と語った。

表1　校種、地区別　関心の有無並びに見学実施について

校種	調査項目		北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	沖縄九州	計
			調査対象地区									
小	関心の有無	ある	—	20	137	7	29	—	—	—	—	193
		ない	—	0	8	1	7	—	—	—	—	16
		計	—	20	145	8	36	—	—	—	—	209
	実施の有無	実施する	—	10	13	0	1	—	—	—	—	24
		〃しない	—	4	64	11	25	—	—	—	—	104
		未定	—	6	74	2	10	—	—	—	—	92
		計	—	20	151	13	36	—	—	—	—	220
中	関心の有無	ある	16	44	156	28	52	80	—	—	—	376
		ない	1	8	19	4	9	11	—	—	—	52
		計	17	52	175	32	61	91	—	—	—	428
	実施の有無	実施する	0	7	23	2	3	4	—	—	—	39
		〃しない	15	16	59	15	22	40	—	—	—	167
		未定	2	29	96	18	37	48	—	—	—	230
		計	17	52	178	35	62	92	—	—	—	436
高	関心の有無	ある	128	173	470	70	200	130	125	55	180	1,531
		ない	4	13	43	13	24	31	16	4	26	174
		計	132	186	513	83	224	161	141	59	206	1,705
	実施の有無	実施する	8	10	97	5	11	4	8	9	10	162
		〃しない	52	40	127	33	86	83	55	15	81	572
		未定	72	141	298	49	129	82	81	35	117	1,004
		計	132	191	522	87	226	169	144	59	208	1,738
回答校数			149	263	851	135	324	261	144	59	208	2,394

福井県支部長に

青山　忠氏

青山忠氏

財団法人全国修学旅行研究協会の福井県支部長に、四月一日付で青山忠氏が就任した。

青山氏は、昭和十八年福井師範学校本科を卒業、同年から、福井県武生市立武生東小学校教諭を振り出しに、県内の小・中学校教諭・教頭・校長を歴任、現在、武生市立第二中学校長、武生市小中学校長会長であるとともに、福井県学校生活協同組合理事長の職に在る。

風紋

「旅の精神とは観察の精神です」という矢内原伊作のことばがある。ガイドブックなどの氾濫で先入観でものを観る癖がつく。どうすればまともな目で観られるのか▼旅はあくまで自発的行為、人それぞれに異った目で違った感興がわく。仏像など一目見てはっと心に響く時があり、じっと観ると何かを語りかける。それを囲む堂宇の古色、壮大さを感じる。説明録音機を廃し説明書程度、静かな雰囲気で観る。余韻を残しながらしばし徘徊してみよう▼車中ではガイドの説明のべつ幕なし、車窓の風景に目をやる暇もない。まさにテレビのC・Mと同じ。〝奥の細道〟同行の曽良は克明な旅日記を残した旅のベテラン、芭蕉の感興をそがない配慮をしたことと思う▼平凡な田園風景の中で補助的知識をもてば、額田女王と大海人皇子の相聞歌をとり交した地であると想いも豊かになる。人に触れて手短な話の中に〝人恋し尾道の街〟を理解するともいう▼今、京で文観税がこじれている。もとは貧者の一灯、手間と費用はお賽銭でまかなった。また朝市、社寺、祭などにばかりこだわり過ぎると森全体を見失なうおそれがある▼要は先入観をすて、無心で野の道を歩き、街道にとけこみ、濁りのない個性あふれる目で確かめたいものである。

信頼される旅づくり

近畿日本ツーリストは、生徒のみなさんに素晴らしい修学旅行を…の願いから、教育映画の制作に取り組んでいます。現在のライブラリーは、中学・高校生を対象とした『学習の旅シリーズ』全16篇。そして社会・文化・歴史・教育・観光・自然など、幅広い分野から制作された『ツーリスト映画シリーズ』全15篇（国内10・海外5）。いずれも修学旅行の事前指導、学習教材としてご活用いただけます。ツーリストはこのような文化活動を通じて、教育・一般社会のみなさまにお役に立つよう、努力を続けています。

◎ツーリスト映画リスト　※修学旅行の事前指導や学習教材に、どうぞお気軽にご利用ください。

学習の旅シリーズ 題名	上映時間	受賞	ツーリスト映画シリーズ（国内） 題名	上映時間	受賞	ツーリスト映画シリーズ（海外） 題名	上映時間	受賞
北海道・道東	29分		北海道	28分	文部省選定	ヨーロッパの旅	30分	日本産業映画奨励賞（第14回）
北海道・道南	20分	文部省選定	京都の庭園	26分	文部省特選			
東北	20分		京都の川	34分	文部省特選・芸術祭大賞（46年）	大いなるアメリカ	30分	
日光	15分	文部省選定				アメリカ西海岸の旅	30分	
東京	15分		大和の塔	38分	文部省選定	ハワイの休日	33分	
富士箱根	20分	文部省選定	大和の石	25分	文部省選定・文部大臣賞	東南アジア	30分	
信州	20分	文部省選定						
京都	20分	文部省選定	大和の道	25分	文部省選定・文部大臣賞			
奈良	20分	文部省選定						
伊勢志摩	22分		南紀	28分				
山陽山陰	23分	文部省選定	瀬戸内海	31分	文部省選定			
九州やまなみ	20分	文部省選定	沖縄の心	31分	文部省選定			
九州西海	20分	文部省選定	うつわ（食器の文化）	41分				
南九州	20分	文部省選定						
光あふれる沖縄	21分							
スキースクール	22分	文部省選定						

近畿日本ツーリスト
運輸大臣登録一般旅行業第20号

56万名の修旅計画

59年度

関東・東海・近畿三地区連合委員会

関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会（南裕之会長）では、昨年来五十九年度専用電車による輸送計画につき、それぞれの地区修学旅行委員会において、国鉄と折衝し協議を重ねてきたが、このほど三地区合計で二千四校、五十六万千五百九十五名の計画がまとまった。

（関東地区）

関西方面修学旅行は、東海道新幹線を利用して、七百十校十八万三千八百十五名、東北方面修学旅行で、東北新幹線を利用するのは、四十一校一万千五百七十四名で、合計七百五十一校十九万五千三百八十九名となっている。五十八年度より一万二千二百十三名の増であった。

これを県別にみると、関西方面＝埼玉三百五校九万千七百五十五名、茨城百二十六校三万五百三十七名、千葉百一校三万九百七十五名、栃木百二十八校二万五千百五十五名、群馬五十校五千三百九十三名である。また東北新幹線利用は、千葉二十校五千七百四十六名、埼玉二十一校五千八百二十八名となる。

（東海地区）

新幹線利用は関東各方面へ四百七十校、十二万三千七百五十九名、こまどり号利用は七十四校二万二千九百六十八名で合計五百四十四校十四万六千七百二十七名、そのうち秋季（十月）の新幹線利用は、十五校四千百六十七名が含まれる。これを県別にみると、岐阜は新幹線百十一校、二万三千五百三十八名、こまどり号二校九百七十五名、計百十三校、二万四千五百十三名である。また三重は新幹線のみで、七十三校一万五千四百五十名となっている。愛知は新幹線二百八十六校八万四千七百七十一名、こまどり号七十二校二万千九百九十三名、合計三百五十八校十万六千七百六十四名で、内訳は尾張地区新幹線百十六校三万五千百十四名こまどり号二十四校七千九百六十一名、計百四十校四万三千七十五名、三河地区新幹線七十二校一万九千五百八十九名、こまどり号四十四校一万二千二百七十九名、計百十六校三万千八百六十八名、名古屋市新幹線九十八校三万六千八名、こまどり号四校千七百五十三名、計百二校三万千八百二十一名である。総数で新幹線約二千百名増、こまどり号約二千五百名減である。

（近畿地区）

東海道新幹線で、関東方面へ二百四十一校六万九百四十五名で、前年度より約九千八百名増山陽新幹線で中国方面へ百二十七校四万五百十二名で前年度とほぼ同数、また信州方面へは在来線専用列車で百八校、四万千二百二十四名、五十八年度より約五千四百名減である。九州方面へは新幹線、船とのコンバイン二百三十三校七万六千七百九十八名で、合計七百九校、前年度より約八千二百名減じて、二十一万九千四七十九名となる。

内訳をみると、大阪府三百三校十万九千七百三十五名（内、大阪市百二十校三万八千九百九十二名）、京都府百三校二万五千五百一名（内、京都市四九校八千八百五十三名）、兵庫県二百五十八校七万五百九十五名（内、神戸市七十四校二万千六百二十七名）、奈良県三十四校九千七百六十三名、滋賀県十一校三千八百八十五名の計画である。

表2　実施形態と宿泊希望地

調査項目		校種 小	校種 中	校種 高	計
実施形態	科学万博見学だけ	4	8	62	74
	修学旅行に組み入れる	12	93	359	464
	遠足	9	18	62	89
	校外学習	15	26	102	143
	未定	180	291	1,153	1,624
	回答数	220	436	1,738	2,394
宿泊希望地	茨城県内	7	11	60	78
	栃木県内	1	5	9	15
	千葉県内	1	0	3	4
	東京都内	6	36	133	175
	伊豆・富士・箱根	0	4	10	14
	未定	205	380	1,523	2,108
回答数		220	436	1,738	2,394

修学旅行の実態調査

―三重県修学旅行研究会―

一、回収率
二、実施学年
三、実施時期
四、旅行期間
五、引率教員数
六、児童生徒の旅費
以上　前号まで

七、利用交通機関

小学校では、オールバスが三〇八校（七三％）、鉄道とバスの併用校が一一四校（二七％）となっている。中学校は新幹線、こまどり号など、鉄道輸送によっているので、とくに調査はしていない。

八、見学地及び宿泊地

小学校の場合、前年度とあまり変っていない。京都三八六校（九一％）が最も多く、ついで奈良三〇八校（七八％）、大阪一九七校（四七％）、神戸三七校、滋賀一八校で、他は静岡、浜松、名古屋等である。（校数は延校数）宿泊についても京都が断然多く、ついで奈良、大阪、神戸等となっている。

中学校の見学地は、東京（一五四校）箱根（一〇四校）鎌倉（六〇校）日光（五〇校）富士（四二校）等が多く、河口湖（九校）宮島（九校）秋芳洞（六校）萩（五校）静岡（五校）等である。

宿泊は、これに伴って、東京（一五一校）箱根（八六校）日光（五〇校）河口湖（三〇校）宮島（八校）萩（五校）等となっている。

高等学校の旅行地は、北九州（二三校）九州・山口（五校）広島・山口（八校）信州（五校）等が多く、広島・山口・岡山・岐阜・京都・奈良・北陸などに分散しているが、秋田県が一校あるのが注目された。調査書では「特に今年一校が秋田県に行っているが、東北新幹線が開通して便利になったことと、学校が独自の目標をもって秋田県の民謡歌舞団わらび座に研修場所を定めたことによるものと思う」と推定している。

九、引率教員の旅費

小学校では、県費のみが、三四校（八・一％）、市町村費のみが、一七五校（四一・五％）県費と市町村費が九九校（二三・五％）、市町村費が主で県費も加わるのが九二校（二一・八％）だが、県費＋市町村費＋PTA（五校）などと、少数ながらPTAが一部負担する学校もある。

中学校でも、県費と市町村費でまかなっている学校、市町村費のみの学校、県費・市町村費をPTA費で補っている学校等まちまちであるが、それらは地域的に類型化傾向があるとしている。その実態を例示すると、県費のみが八校（四・九％）市町村費のみが五六校（三四・二％）県費（主）と市町村費（補）が二二校（一三・四％）、逆に市町村費（主）県費（従）が二九校（一七・七％）と種々のケースがあるが、県費と市町村費とPTA費が一一校（六・七％）など、PTA負担が少くない。

一〇、その他

小遣いについては、小学校だけが調査されている。同じ地域では大体統一されているようであるが、地域間の格差が大きい、としている。一泊二日実施校で二五〇〇円から三〇〇〇円まで、二泊三日実施校で四〇〇〇円から六〇〇〇円まで、今年六〇〇〇円は数校にとどまり、昨年より少くなっている。

高等学校の、旅行経費の制限についての所見に対し、回答校の九〇％以上が増額を望んでいるとして、行先を変更してその範囲内でという安易な考え方ではなしに、学校側が真の教育的価値を認め、選定された旅行地が生徒にとって、生涯の糧となる事を思う時、ある程度の値上げは仕方ないのではあるまいかと結んでいる。（おわり）

《編集部後記》

県内の修学旅行の実態を把握し、それをふまえた改善をはかるための価値ある資料でしたが、要点だけの紹介で意を尽くさなかったことをおわびします。

58・4教育界のうごきから

道徳教育を実態調査　校内暴力など非行対策の一環として、文部省は、4月15日、全国の都道府県教委に対し、公立小・中学校における実施状況について、調査を指示した。

マンモス小・中学校解消へ　正常な教育ができにくい、過大規模校の解消は、非行多発を防ぐために急ぐ要があるとして、文部省では、全国市町村を対象に実態調査を指示していたが、これを連休明けにまとめ、その結果によっては、60年度予算に新たな補助金も考えているという。同省では一応、二十四～三十学級を過大規模校と見ている。（読）

小学校へパソコン　コンピューター時代、これを積極的に導入して教育効果を高めることをねらいに、まず全国の小・中・高校・社会教育施設でのパソコン利用の実態調査を行うことになった。

学校の森や花壇づくり　文部省では、4月26日、緑化運動の推進要項をまとめ、各都道府県教育委員会に通達を出した。政府の緑化推進連絡会議が決めた緑化運動実施方針に基づくもの。

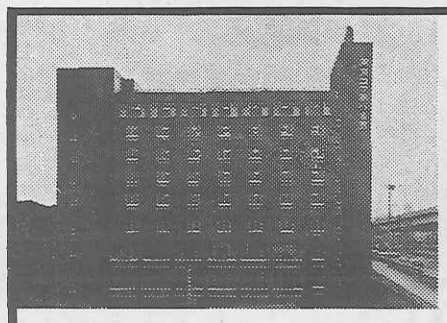
徳島県教委の教育巡回相談　ベテランの生徒指導主事が、各地へ出かけ、非行問題など、父母の悩みにアドバイスをする「教育巡回指導」が三年目を迎え、成果を見られるところから、文部省では、これを全国的にひろげる方針をきめ、今年度はまず非行の多い十五都道府県に費用の補助を出し「教育相談活動推進事業」を実施する、とのことである。

高校入試の全面見直し　文部省は、偏差値重視となっている高校の入学者選抜方法の改善に本格的に乗りだすことになった。十七年ぶりの見直し、続発する校内暴力や非行の原因のひとつに、偏差値重視の受験戦争をとらえたのは、遅きにすぎたが〝大賛成〟、その第一弾として4月28日、東京、京都など九都道府県教委の担当課長による「高校の入学者選抜の在り方に関する意見交換会」を開いた。現在の中三生徒の受験に間に合わせたいという。大いに期待する。

小学校先生は25㍍泳げるように　東京都教委は4月27日、59年度教員採用試験の実施要項を発表したが、それによると、小学教諭に今回から水泳（25㍍）の実技を課した。全国的にはすでに課しているところも多いという。先生は、字もうまく、見聞がひろく、ピアノもひけて、水泳も、スキーも……と実技がうまいといいナア。

授業で使う「赤本」にメス　教師が多く〝活用〟しているという「赤本」。その実態があまり知られていない。埼玉県与野市教育センター資料室では、全国でも初めての調査書「赤刷指導書―いわゆる赤本をめぐる諸問題」をまとめた、とのことである。それによると「赤本に子供をあわせる、子供不在の教育」になるという。虎の巻は罪のみにて功なきものか。

校内暴力・非行の新聞報道　深憂の念をもって、4月中の新聞報道から拾う。　4・7始業式よそに大荒れ、学級編成気に入らぬ。　4・14女子中学生をリンチ、同級生六人・　4・16髪、服装が悪い、女子高でリンチ、2年生四人へ集団で。　4・16授業中、女教師殴る、中三の女生徒二人。　4・23パンク魔は公立高校生、調布飛行場事件で逮捕。　4・15恩師の家に手製爆弾、郵便箱吹き飛ぶ、中三の二人。　4・19制裁の五生徒逮捕、凶器のバットを押収。



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL (03)585－1046(代表)

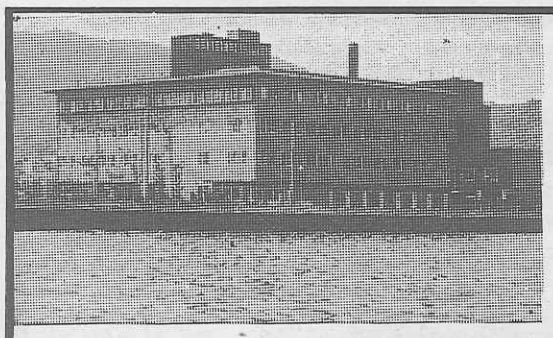
東京 コマ旅行会館

新しい修学旅行の幕あけ！
洋上体験学習

貸切専用外航純客船 国内、海外へ
クルーザー
さんふらわあで航く修学旅行

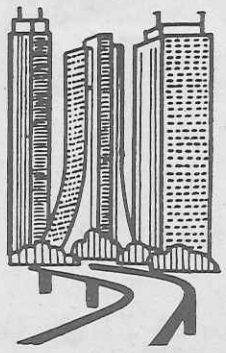
●阪神－別府直行大型フェリー（毎日1便）●阪神－別府航路（毎日2便）
★貸切船こはく丸（3,000㌧）もご利用ください。

お問合せは
関西汽船
●営業部営業課：大阪市北区梅田1－1　☎（06）344－7031
●東京支社：東京都中央区八重州1-4-14　☎（03）274－4273
及び各支店、営業所、旅行代理店へ



いらっしゃいませ
びわ湖国定公園
近江路の旅へ
収容　600名様
浴場　150名様
設備　全館冷暖房
防災　諸設備完備
駐車場　バス20台
政府登録
国際観光旅館
びわ湖ツーリスト・ホテル
大津市におの浜3丁目2－25　電話　大津(0775)24－2321

首都東京を見て、何かを！



学校単位の貸切りで
ご利用下さい
30年の経験を生かす 50旅館 8000名収容
本郷の旅館へ
本郷旅館協同組合
〒113 東京都文京区本郷4－36－3 TEL 03－813－9381